

「V て、どうぞ」

—SNS における陳述副詞「どうぞ」の拡張的用法—

三瀬凧乃 (立命館大学 学部生)

岡本雅史 (立命館大学)

<Abstract>

This study analyzes the meaning and usage of *dōzo* in a Japanese novel expression ‘V-te, *dōzo*’, which has been recently used on Twitter. As a result, it clarifies that this type of *dōzo* can be used in such utterances where *dōka*, which is a similar expression of *dōzo*, should be used. Therefore, it is found that “*dōzo*” in this expression is used more extensively than its conventional usage. Furthermore, it is clarified that the communicative and environmental characteristics of ‘V-te, *dōzo*’ are similar to those of the Addressee-Unspecified Loud speech (AUL speech) used by some African tribe. This suggests that a social media as a unique communication space may have the potential to create new linguistic expressions and language changes.

【キーワード】: SNS、新奇表現、言語変化、拡張的用法、投擲的発話

1. はじめに

本発表の主眼は、主に SNS 上で使用される「V て、どうぞ」表現の「どうぞ」の新用法に着目し、その意味や機能を先行研究における「どうぞ」の特徴と比較しながら分析し、こうした新奇な用法が SNS という特殊な空間に由来したものであることを指摘する点にある。

言語変化に関する従来の研究の多くは、話し言葉に焦点を当てたものが中心となっている¹。しかし、インターネットが普及した現代社会では、文字のみのコミュニケーションも活発に行なわれている。その中には、話し言葉として使用されないがために、問題としては表面化しないが、全く新しい言葉や今までとは異なった用法で頻繁に使用されている表現もある。本研究で取り上げる「V て、どうぞ」表現もその一つである。こうした表現は、インターネット上の日本語（以下、ネット用語）として扱われ、研究の対象とされている。しかし、その多くが数あるネット用語を分類分けしたものとどまり（松田 2006; 村上 2006; 内山 2010）、個別の表現に焦点を当て、詳細に分析したものはほとんどない。

そこで、本研究では、ネット用語の一つである「V て、どうぞ」表現の「どうぞ」の意味・用法に着目し、Twitter の用例をもとに、先行研究における「どうぞ」の用法と比較しながらその違いについて分析する。さらに、こうした新奇な用法と SNS という特殊な空間との関わりについて考察する。

2. 「V て、どうぞ」について

はじめに、本研究で扱う「V て、どうぞ」という表現について説明する。

「V て、どうぞ」という表現は、主に Twitter を中心に近年使用されるようになった表現である。以下に具体例を挙げる。

- (1) a. 海も祭りも行けてないから、もう一回夏来てどうぞ²
- b. ググって、どうぞ

この表現が波及した背景には、映像作品『真夏の夜の淫夢』の影響があると言われており、登場人物が人を自宅に招き入れる際に発した「入って、どうぞ」というセリフが元となっている³。本来は、本作品の視聴者間で使用される表現であったが、現在ではそうした背景が考慮されることなく SNS 利用者を中心に使用されていることがうかがえる。そのため、(1) のように、句読点をつけるかつけないかという点において表記ゆれがあるが、用法としては同一であるため、本研究では句読点をつけていない表現も含めて「Vて、どうぞ」表現と総称することにする。

3. 先行研究

「Vて、どうぞ」表現を分析する前に、まずは副詞研究を概観し、副詞としての「どうぞ」の特徴を整理する。次に、「どうぞ」と類似する表現との比較研究を整理し、「どうぞ」の意味・用法についてまとめる。

3.1. 副詞研究における「どうぞ」

工藤 (2000) によると、「どうぞ」は副詞の中の陳述副詞にあたり、<依頼><願望>に関わる表現と呼応して用いられる。陳述副詞とは、「述語の陳述的な意味を、補足したり明確化したりする副詞」(p. 172) のことで、「一定の陳述的意味をなう形式と呼応して用いられる」(p. 172) という特徴を持つ。また、益岡・田窪 (1992) は、「どうぞ」が文末における<依頼><願望>の表現と呼応する副詞であると述べている。さらに、「どうぞ」は文頭に近い位置に現れ、文末のモダリティを予測させる働きを持つと主張している。また、仁田 (2009) は「どうぞ」を「聞き手への促しといった話し手の伝達の態度のあり方を表す」(p. 29) 副詞として位置付けている。

つまり、「どうぞ」には<依頼>や<願望>に関わる表現と呼応し、話し手の態度を表すという特徴があると整理できる。また、一部の研究では、「どうぞ」が文末における表現を予測させる働きがあるものとして、文頭に近い位置に現れるという構文的特徴を強調しているものもある。

3.2. 「どうぞ」と命令文における“please”

次に、日英表現の比較として「どうぞ」と命令文における“please”の比較研究を取り上げる。

武内 (2015) は、Wilson & Sperber (1988) の関連性理論の命令文分析⁴をもとに、「どうぞ」と命令文における“please”の違いについて以下のように指摘している。

関連性理論では、命令文は文の命題内容が潜在的かつ願望的であるということを記述するのに使用されると主張している。願望性は、誰(X)が、何(Y)を、誰の観点(Z)から、望ましいとみなしているかの三項関係から成り立つ。命令文の場合、Xは話し手、Yは命題内容と固定され、Zは関連性の原理に従って、文脈情報をもとに決定される。

- (2) Leave the room immediately.

(武内 2015, p. 202)

そのため、英語では (2) のような命令文は、それ自体では<命令>と<依頼>の区別を持たず、それぞれの意味の解釈は文脈想定と語用論上の原理との相互作用によって規定される。つまり、聞き手が命令発話を理解するためには、以下の語用論的要因が用いられるのである。

- (3) a. 話し手は命題内容を誰にとって望ましいと見なすか
- b. 聞き手と話し手の上下関係
- c. 聞き手や話し手は命題内容を実現する能力を保持しているか

命令文における“please”は (3)b において、聞き手上位の情報を持っているため、文全体が<依頼>として解釈される。一方、日本語では、「しなさい」や「してください」といった言語選択によって<命令>と<依頼>が明確に区別されている。そのため、単純な命令文と共起できない「どうぞ」は、命令文における“please”と同様に聞き手上位の情報を持っていると予測できる。しかし、“please”とは異なり、「どうぞ」が使用されなくても、「してください」などの言語形式によって、<依頼>の意味の解釈が可能となるため、「どうぞ」の使用は余剰であり、その働きは解釈の方向性の強調であると考えられると述べている。

つまり、「どうぞ」と命令文における“please”は聞き手上位の情報を保有する点においては共通するが、その用法は、“please”が直接的に命令文に<依頼>の解釈を加える一方、「どうぞ」は<依頼>などの解釈を与える言語形式と共起するため、その働きは余剰的であるという点で異なるといえる。

3.3. 「どうぞ」と「どうか」

次に、日本語における類似表現である「どうか」と「どうぞ」の比較研究を取り上げる。

武内 (2015) は、関連性理論の観点から、前節で挙げた (3) の語用論的要因をもとに、命令発話が持つ意味の解釈を6つに分類し、その上で「どうぞ」と「どうか」の違いについて述べている。

命令文がある文脈において発話された時、(3)a において望ましさが話し手の観点からのものであれば、<命令><依頼><聴衆のいない命令文>として理解される。<命令>と<依頼>の違いは、(3)b において、<命令>が話し手上位であり、<依頼>が聞き手上位である点にある。また、<依頼>と<聴衆のいない命令文>の違いは、(3)c において、聞き手に実現能力があるかどうかによる。“Please don't rain.” のような命令文はその行為を実現する聞き手もなく、話し手自身にもその能力がないことから<聴衆のいない命令文>として理解される。一方、(3)a において、聞き手の観点から望ましいと話し手が考えれば、命令文は<助言><許可><祈願>として理解される。<許可>は聞き手による行為の実現を話し手が可能であると保証している点で<助言>と異なる。<祈願>は (3)c において聞き手も話し手も実現能力を持たないが、聞き手が存在する点において<聴衆のいない命令文>と区別される。

武内 (2015) は、「どうか」は「どうぞ」と同様に単純な命令文と共起できないため、(3)b の観点から、「どうか」も聞き手上位の情報を持つという点では共通する一方、「どうぞ」と「どうか」は (3)c にも関わりと述べ、両者の違いは命題内容が誰にとって望ましいとされているかにあると主張している。すなわち、「どうぞ」は聞き手にとって望ましいと話し手が考えている時に使用され、「どうか」は話し手自身にとって望ましい場合に使用される。そしてこの違いから、「どうぞ」は<助言><許可>

<祈願>として理解され、「どうか」は<依頼><聴衆のいない命令文>として理解される。

つまり、「どうぞ」と「どうか」は命令発話の意味解釈の手助けとして、聞き手が上位であるという情報と望ましさの対象が誰であるかという二つの情報を文全体に与えているのである。

しかし、「どうぞ」が<依頼>に用いられないという点に関して異を唱えている研究もある。

周 (1992) は日本語学習者が「どうぞ」を使用する上での疑問に答えるという立場から、「どうぞ」の使用上の制約条件について考察した。

- (4) a. 三十を過ぎてやっと人並みの幸せを得た今の私の生活をどうぞそっとしておいてください。
b. *すみません、どうぞ、鉛筆を貸してください。

(周 1992, pp. 133-134)

その中で、特に依頼表現に関して、(4) のように、「どうぞ」が依頼として使用できる場合とできない場合があると指摘し、その条件として、聞き手の意志の有無に着目した。すなわち、「どうか」は聞き手の意志の有無に関係なく、とにかく相手にそうしてもらいたいと依頼する表現であり、「どうぞ」は聞き手の意志があると話し手が認識あるいは判断してはじめて使用できるのである。そのため、聞き手の意志があると判断した場合は<依頼>としても使用できると指摘している。

4. 分析手法

「Vて、どうぞ」表現の分析にあたり、Twitter からさまざまな用例を採集した。Twitter の用例の抽出方法は以下の通りとする。

- ① 語順を定めるため、Twitter の検索ワードに「てどうぞ」「でどうぞ」⁵をそれぞれ完全一致検索で設定する⁶
- ② 抽出された表現の中から、「て」「で」に動詞が接続し、かつ「どうぞ」で文が終わるものを採集する

上記の方法で用例を 74 例採集した。これらの用例を用いて、前章でまとめた先行研究との比較をもとに、次節にて構文的特徴と意味的特徴の二つの観点から分析を行う。

5. 分析結果

5.1. 構文的特徴

用例の分析から、「Vて、どうぞ」表現の構文的特徴が三点観察された。

一つ目の特徴は、話し手によって指示される行為内容 (V) が、「どうぞ」よりも前に表されるという特徴である。従来の研究における「どうぞ」を含む文では、話し手が聞き手に対して指示する具体的な内容が、「どうぞ」よりも後ろに表される (5b)。一方、「Vて、どうぞ」表現では、話し手が指示する行為内容が「どうぞ」よりも前に表されている (5a)。

- (5) a. 上のゲーセンに居るんです許してください。先入ってどうぞ。
 b. どうぞ先に入ってください。(筆者作例)

しかし、中には以下のような例も存在する。

- (6) 紅茶好きな人に食べてみてほしいな。マリアージュフレールとか淹れてどうぞ 🍵🍓

(6) は、その文脈から「どうぞ」以降に「お食べください」という発話を加えることも可能である。この場合、話し手が聞き手に指示している行為が「淹れる」という行為であるとも、明示されていない「食べる」という行為であるとも解釈することができる。こうした用例は、「Vて、どうぞ」表現が出現する以前から使用されていることが観察された。「Vて、どうぞ」表現の出現以前のこれらの用法は、「どうぞV(発話内容)てください」という表現におけるV以降の省略であると解釈できる。しかし、「Vて、どうぞ」表現が頻繁に使用されるようになった近年では、(6)のような例が、「Vて、どうぞ」表現として使用されているのか、あるいは副詞「どうぞ」が使用された文におけるV以降の省略として使われているのかは文面のみでは判断することができない。これらの違いについて今後明らかにすべきではあるが、現時点では判別できないため、本稿では(6)のような例も「Vて、どうぞ」表現として今後は扱うこととする。

二つ目は、文末の特定の言語形式と呼応しないという特徴である。第三章で見たように、現代語における「どうぞ」は、「てください」や「てちょうだい」などの特定の表現と呼応することがその特徴に挙げられる(工藤 2000; 武内 2015)。しかし、「Vて、どうぞ」表現における「どうぞ」は、「どうぞ」が文末に現れるため、「てください」などの特定の言語形式との呼応はない。

- (7) a. いつでも予約空いてるからきて、どうぞ
 c. もっと叫んで、どうぞ

三つ目の特徴は、「Vて、どうぞ」表現において「どうぞ」が文全体に直接的に聞き手上位の情報を与えているという特徴である。

- (8) a. 電話番号教えたんだから連絡は電話でしてどうぞ...
 b. 電話番号教えたんだから連絡は電話でして

例えば、(8)a の用例は、「電話してほしい」という<依頼>や相手に対する<助言>として解釈できることから、これらの発話は聞き手上位であるといえる。しかし、(8)b のように(8)a から「どうぞ」を除いた場合、話し手がこれらの行為を聞き手に強要している<命令>の文であるとも解釈が可能になってしまう。このことから、「Vて、どうぞ」表現における文末の「どうぞ」は、文全体に聞き手上位の情報を与える役割を持ち、発話が<命令>であるか<依頼>や<助言>であるかを区別するための指標として機能しているといえる。現代語の「どうぞ」でも、聞き手上位の情報を保有していたが、

文末の言語形式が文全体の意味解釈を直接的に与えていたため、「どうぞ」の働きは余剰的で、補足的な意味を与えるものであった(武内 2015)。しかし、「Vて、どうぞ」表現における「どうぞ」は、文末の言語形式と呼応しないために、「どうぞ」が文全体に直接的に聞き手上位の意味解釈を与える働きを担っている点で、現代語の用法とは異なっている。

5.2. 意味的特徴

5.2節の構文分析から、「Vて、どうぞ」表現における「どうぞ」が文全体に聞き手上位の意味解釈を与える役割を担っていることがわかった。そこで、「Vて、どうぞ」表現の意味に関してさらに分析する。分析にあたり、用例の意味の判断基準として、武内(2015)の命令文における文脈想定と語用論上の原則を用いる。分類の基準は以下の通りである。

- (3)a. 話し手は命題内容を誰にとって望ましいと見なすか
- b. 聞き手と話し手の上下関係
- c. 聞き手や話し手は命題内容を実現する能力を保持しているか

「Vて、どうぞ」表現は、5.2節の構文分析の結果より、(3)bにおいて聞き手上位の情報を与えることがわかっている。意味の分析を深めるために、本節では(3)aと(3)cの基準を中心に分析する。その際、会話に関しては前話者の発話内容が次話者の発話の意味内容に関わる場合があるため、前話者の発話も考慮した上で分析を進める。

以下は「Vて、どうぞ」表現の用例とその意味の解釈を分析した結果である。

- (9) a. A: バリってなんですか?
 B: うまく説明できないのでググってどうぞ <助言>
- b. A: ホテルまた遊びに行きたいぞ!!
 B: いつでも予約あいてるからきて、どうぞ <許可>
- c. A: 急性胃腸炎でした
 B: しっかり治して、どうぞ <聞き手利益の祈願⁷⁾>
- d. 困難は群れで分け合え、だもんね! じゃあテスト手伝って、どうぞ <依頼>
- e. 西千葉で雪が降っても何も嬉しくないから早く晴れて、どうぞ <話し手利益の祈願>

分析より、「Vて、どうぞ」表現が使用される文の意味解釈は、<助言><許可><聞き手利益の祈願><依頼><話し手利益の祈願>であることがわかった。現代語における「どうぞ」は命令発話において、聞き手上位の情報と行為の望ましさが聞き手であるという二つの情報を保有している。そのため、「どうぞ」が使用される発話は<助言><許可><聞き手利益の祈願>のいずれかの意味に解釈された。しかし、「Vて、どうぞ」表現は、望ましさが話し手である<依頼>と<話し手利益の祈願>の意味としても解釈される。このことから、「Vて、どうぞ」表現の「どうぞ」は、現代語における「ど

うぞ」とは異なり、命令発話において聞き手上位の情報しか保有しないといえる。また、本来であれば、行為の望ましさが話し手である<依頼>と<話し手利益の祈願>の発話には「どうか」が使用されることから、「Vて、どうぞ」表現の「どうぞ」は現代語における「どうか」の役割も担っているといえる。

6. 考察

では、なぜ「Vて、どうぞ」表現の「どうぞ」が現代語とは異なる意味で使用されるのかについて、「Vて、どうぞ」表現に共通する性質を探ることで考察する。

「Vて、どうぞ」表現では、<依頼>の発話に愚痴のような内容が多いことや、非現実的なことを願うような発話（話し手利益の祈願）が見られる。また、ある行為に対して<助言>や<許可>を与える発話においても、発話者は聞き手に対してその行為が遂行されたかどうかを気にかけるような発話を補足している事例はほとんど見られない。このことから、「Vて、どうぞ」表現は「話し手は、聞き手または話し手にとって、聞き手がその行為をすることを望ましいと思うが、実際に遂行されるかどうかは聞き手に委ねる」投げっぱなし表現として使用されていると考えられる。そのため、必然的に行為の実現を聞き手に対して強要する<命令>の表現には使用されず、聞き手上位の<助言><許可><聞き手利益の祈願><依頼><話し手利益の祈願>に解釈される。この「Vて、どうぞ」の投げっぱなし的な表現は、木村 (2003) の「投擲的発話」の特徴と共通性を持つ。

「投擲的発話」とは、ボナンゴ（アフリカのザイール（現・コンゴ民主共和国）のボンガンドの村の人々が話す特異的な発話）に代表される「相手を特定しない大声の発話」のこと指す。特徴として、話し手は熱心に言葉を発するが、聞き手は聞いていない態度で対応することが挙げられる。ボナンゴの発話内容は、(i)共同作業への誘い (ii)ニュースのような新奇のインフォメーション (iii)伝統的な規範の教え諭し (iv)警告や愚痴、が主である。木村 (2003) は、ボナンゴが話される要因として、共在感覚（他者と一緒に居る感覚）を挙げている。ボンガンドの人々の共在感覚は日本人よりもはるかに広い。そのため、ボンガンドの村では村全体を覆う緩やかな他者とのつながりが常に存在している。木村 (2003) は、このつながりに対する反作用として投擲的な発話が形成されていると述べている。

一方、「Vて、どうぞ」表現はSNS上で使用されるという特徴を持つ。SNSは、物理的な距離に関係なく、他者と関わることのできる空間である。つまり、私たちはSNSを使用することで、ボンガンドの人々と同様に、常に他者と繋がっている感覚を持つことができるようになる。こうしたSNSにおける共在感覚に対する反作用として、「Vて、どうぞ」のような投げっぱなし表現が生まれたと考えられる。

7. まとめ

本研究では、ネット用語の一つである「Vて、どうぞ」表現に関して「どうぞ」の意味・用法に着目し、Twitter上の用例をもとに分析した。分析の結果、「Vて、どうぞ」表現における「どうぞ」は、構文上「てください」などの特定の言語形式と呼応しないために、文全体に聞き手上位の情報を与えていることがわかった。また、意味の解釈に関しては<助言><許可><聞き手利益の祈願><依頼><話し手利益の祈願>として解釈されることから、「どうか」の役割も担っている点で、現代語における

「どうぞ」とは異なる用法がなされているといえる。さらに、「Vて、どうぞ」表現が使用される発話は、発話によって促される行為の遂行を聞き手に委ねる投げっぱなし的な表現として話されていることがわかった。こうした「Vて、どうぞ」表現における従来とは異なった「どうぞ」の用法は、投擲的発話と共通性を持ち、発話の場である SNS の環境特性に対する反作用として「Vて、どうぞ」のような投げっぱなし表現が生まれたと考察した。これにより、SNS 特有のコミュニケーション環境が新たな言語表現や言語変化を生み出す可能性を持っていることが示唆される。

注釈

- 1 具体的には、坂口 (2013) の「やばい」の意味・機能の拡張に関する研究や、川口 (2017) の若者言葉における「大丈夫」の新用法に関する研究などがある。
- 2 出典の記載のないものは全て Twitter の用例である。
- 3 タネタン, 「〇〇して、どうぞの元ネタ」(2013年3月19日), https://moto-neta.com/net/site-douzo/[最終検索日: 2021年3月29日]
- 4 関連性理論の命令文分析に関しては、武内 (2015) の説明では不十分であると判断したため、一部阿部 (1999) を参考にしている。
- 5 語形変化によって「Vで、どうぞ」となるものも「Vて、どうぞ」表現に含む。
- 6 Twitter の検索機能には、句読点の判別機能がないため、検索ワードには句読点を含まずに設定した。
- 7 武内 (2015) は、本稿における<話し手利益の祈願>と<聞き手利益の祈願>にあたる発話を、それぞれ「聴衆のいない命令文」と「祈願」と定義している。しかし、後述する用例において、武内 (2015) が定義する「聴衆のいない命令文」においても、祈りと捉えられる用例が観察されたため、本研究において「祈願」と「聴衆のいない命令文」として区別することは不適切であると判断し、<話し手利益の祈願>と<聞き手利益の祈願>として言い換えている。

参考文献

- 阿部桂子. 1999. 「命令文の語用論」、『語用論研究』、1、29-43.
- 川口良. 2017. 「若者ことばに見る(間)主観化について: 「大丈夫」の新用法に注目して」、『文学部紀要』、31(1)、37-57.
- 木村大治. 2003. 『共在感覚—アフリカの二つの社会における言語的相互行為から』 京都: 京都大学学術出版会.
- 工藤浩. 2000. 「副詞と文の陳述的なタイプ」、森山卓郎・仁田義雄・工藤浩『日本語の文法(3) モダリティ』、164-234、東京: 岩波書店.
- 松田謙次郎. 2006. 「ネット社会と集団語」、『日本語学』、25(10)、25-35.
- 益岡隆志・田窪行則. 1992. 『基礎日本語文法—改訂版—』東京: くろしお出版.
- 村上敬一. 2006. 「ネット社会の大規模化・細分化と集団語の様相」、『日本語学』、25(10)、48-57.
- 仁田義雄. 2009. 「第1章 現代語の文法・文法論」、工藤浩ほか『改訂版 日本語要説』、1-46、東京: 国立国語研究所.
- 坂口慧. 2013. 「日本語形容詞「やばい」の意味拡張と強調詞化に関する一考察: 認知言語学から見る意味の向上のメカニズム」、『言語情報科学』、11、19-35.
- 周国龍. 1992. 「「どうぞ」使用上の制約条件に関する一考察」、『名古屋大学人文科学研究』、21、133-144.
- Sperber, D. & Wilson, D. 1988. "Mood and the analysis of non-declarative sentences." In J. Dancy, J. Moravcsik and C. Taylor (eds). *Human Agency: Language, Duty and Value*, 77-101. Stanford University Press.
- 武内道子. 2015. 「ポライトネス表明<どうぞ>と<どうか>」、『手続きの意味論—談話連結語の意味論と語用論—ひつじ研究叢書<言語編>第128巻』、195-216、東京: ひつじ書房.
- 内山弘. 2010. 「ネットの日本語—2ちゃんねるとニコニコ動画を中心に—」、『地域政策科学研究』、7、219-236.

*謝辞

本校は日本語学論学会第23回大会(2020年11月28日、於: オンライン開催)において発表した内容に加筆、修正を施したものである。本校の素案に対して、貴重なご助言をくださった方々に感謝申し上げます。